

平成25年度病害虫発生予察予報第1号(4月)

平成25年4月3日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	べと病 灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	並 <u>やや多</u> <u>やや多</u> 並 並～ <u>やや多</u> 並～ <u>やや多</u> 少
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ハモグリバエ類 ハダニ類 アブラムシ類	少 <u>多</u> 並 <u>多</u> 少 <u>多</u> 少 並 並
促成ピーマン・シシトウ	斑点病 黒枯病 うどんこ病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ アブラムシ類 ハダニ類	並 並 並 並 並 並 <u>やや多</u> <u>やや多</u>
促成トマト	灰色かび病 うどんこ病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 (TYLCV) タバココナジラミ	<u>多</u> 少 少 並 <u>やや多</u> 並
水稻	苗立枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ イネミズゾウムシ	並 <u>やや多</u> 並 並

I 気象予報(高松地方気象台 平成25年3月29日発表)

＜予想される向こう1か月の天候＞ 3月30日から4月29日

天気は、数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

＜確率＞

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1ヶ月	気 温	四国地方	30	40	30
	降 水 量		40	30	30
	日照時間		30	40	30
1週目	気 温	四国地方	20	40	40
2週目			40	40	30
3～4週目			30	40	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月 : 3月30日(土) ～ 4月29日(月)

1週目 : 3月30日(土) ～ 4月5日(金)

2週目 : 4月6日(土) ～ 4月12日(金)

3～4週目: 4月13日(土) ～ 4月26日(金)

II 病虫害発生予想

1. 抑制・促成キュウリの病虫害

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多

根 拠

- (1) 現在、県中央部で平年に比べ多発生で、発病葉率も高い。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、晴れの日が多い見込みで、発病を助長する気象条件であるため、今後もやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 比較的高温でやや乾燥条件で病勢を進展させることから、適正な温湿度管理に留意する。
- (2) 蔓延すると被害が大きいかつ防除も困難となるので、予防及び初期防除に努める。
- (3) 窒素過多や肥料切れが発病を助長するので、適正な肥培管理をおこない、草勢を維持する栽培管理に努める。

2) ミナミキイロアザミウマ・黄化えそ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並～やや多

根 拠

- (1) 現在、ミナミキイロアザミウマは県中央部で発生面積がやや多く、寄生葉率も平年を大きく上回っている。また、黄化えそ病は県全域で平年並～やや少発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報から、ハウス内外で気温の上昇が考えられことから、ミナミキイロアザミウマは野外からの飛び込みやハウス内での急激な増殖が考えられる。また、薬剤感受性の低下が懸念されていることから、今後も増加傾向で推移すると考えられ、黄化えそ病も増加すると予想される。

対 策

- (1) ミナミキイロアザミウマは生長点部を好んで寄生するため見つけにくく、また、薬剤もかかりにくいことから、丁寧な散布を心がける。また、感受性低下を避けるため、同一薬剤や系統が同じ薬剤の連用は避ける。
- (2) 青色粘着資材等の物理的防除も併用し、ハウス内での密度低減に努める。
- (3) 本虫は黄化えそ病のウイルスを媒介する。発病株は次への発病の感染源となることから、見つけ次第早めに除去する。

2. 促成ナスの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多
根 拠

- (1) 現在、県東部～中央部ですすかび病多発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要素は少ないが、現状の発生が多いことと今後ハウス内は本病害の発病好適条件である高温多湿になることが多くなることから、今後も多発生が予想される。

対 策

- (1) 25℃内外の温度と多湿条件が発病に適し、油断すると急激に蔓延するので、予防及び発生初期の薬剤散布を徹底する。ただし、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は耐性菌発現の恐れがあるので、薬剤の選定には十分留意するとともに、できるだけ過湿状態にならないよう少量の薬液での散布を心がける。
- (2) 薬剤散布のみならず、曇雨天時の加温や送風等耕種的な対策も取り入れ、ハウス内湿度の低減に努める。

2) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:多
根 拠

- (1) 現在、県東部から中央部で多発生で、西部では発生は少ない。
- (2) 向こう1か月の気象予報では気温は平年並で晴れの日が多いことが予想されており、発生を助長すると考えられることから、このまま多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 薬剤感受性低下回避のため系統が同じ薬剤の連用は避け、増加する前に防除を行う。

3. 促成ピーマン・シシトウの病害虫

1) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、全般的に少発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、発生を助長する要素は少ないが、天敵導入ハウスの増加で薬剤

防除も十分でない状況もあり、現状の多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 高温多湿が多発の大きな要因となることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意する。
- (2) 蔓延すると防除が困難になるので、初期防除を徹底するとともに、感染源となる罹病部位はできるだけは場外へ出す。

4. 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多
根 拠

- (1) 現在、平年に比べ発生が多いが、発病果率は高くない。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、発病を助長する要素は少ないが、現在の発生状況から多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病後では防除が困難であるので、予防を主体とし、発生を見たら早めに治療効果の高い薬剤で対応する。
- (2) 蒸し込みぎみの管理や過繁茂は本病を助長することから、温湿度管理や換気、肥培管理、摘葉等作業には十分留意し、適正な栽培管理に努める。

2) トマト黄化葉巻病 (TYLCV)

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (3) 現在、黄化葉巻病の発生は平年並であるが増加傾向である。
- (4) 向こう1か月の気象予報から媒介虫のタバコナジラミはやや増加すると懸念され、現在の発生状況から増加傾向で推移し、平年に比べてやや多発生が予想される。

対 策

- (1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第除去し適正に処理する。
- (2) 媒介虫であるタバコナジラミの防除を徹底する。薬剤散布に当たっては感受性低下を生じないように同一薬剤の連用は避け、感受性低下の恐れのない気門封鎖型の薬剤も使用する。
- (3) 防虫ネットや粘着資材の設置など物理的な方法も活用し、タバコナジラミの侵入及び密度の低減に努める。

県民の皆様にご提供する農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/byoki/boujoshou/>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

2. こうち農業ネットサービス※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

- <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/> (Iモード)
- トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ezweb)
- 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察情報（概要）